

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-11		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個性を尊重し、自己決定できるよう関わっている。機能に応じて食事形態を工夫し提供している。利用者スタッフともにのびのびと過ごせている。ご家族の希望に添えるようご家族の協力が得られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然を満喫できる環境にあるホームでは、理念である“仁徳”を規範として高齢化する入居者の現状を的確に把握し、事故発生予防や身体拘束がなぜ問題なのかを全員で討議する等志向を高くしている。今年度は職員の離職もある中で、ターミナルケアへの取り組みが職員の意欲を引き出し、死を見つめたことがスキルに繋がっていると、入居者及び家族に何をしてあげられるか自問自答しながらの支援に敬意を表したい。リビングで和やかに語り合う姿や、自分の意思を持った趣味の継続等入居者の生活はのびやかである。長く福祉に携わってきた管理者のリーダーシップのもと、身体介護も増える中で職員は自信を持ってケアに当たり、家族に向けたアンケート調査を運営に反映させている。この地に確固たる基盤が築かれており、ますます高齢化・重度化する入居者の支えとして大いに期待されるホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年3月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仁徳である。年に一度会議にて振り返っているが 目につく場所に理念が提示してあるが見ただけで自分に問うことが少ないと考えるスタッフの意見が多い	基本理念「人徳」と定め、年度をスタートするにあたり理念をもとに振り返り、ケアに生かせるよう努めている。管理者は、理想を高くすることが職員のスキルアップにつながるとして目標をたて、長くこのホームで働きたいとするホームでありたいとしている。理念を踏まえたケアである事は、本人や家族に何をあげられるか自問自答して取り組んだターミナルケア事例に表出しており、ケアの原点に理念を置いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災時の応援・避難訓練参加呼びかけをしている。近所のスーパーへの買い物、保育園や小学校からの訪問やボランティアの訪問がある。保育園の運動会案内を受けている。	ホームは、元公的機関の跡地として住民から認知されており、地域とのつながりの基盤となり、災害無線を活用し地域情報をリサーチしている。区長による周辺の草刈りや、ホームにはボランティア、小学生、保育園児の訪問による入居者との交流が継続されている。近隣への買い物時には、よく声掛けもされている。保育園の運動会での入居者の出番の機会も作られる等地域の中の一員として認識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に認知症についての話題となり対応などの経過を報告したりすることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族の意見や困難なケースや虐待についてなど話あっている。	運営推進会議は、メンバーを社協、町議、区長、老人会長、民生委員、町役場、家族として2ヶ月毎に開催している。入居者状況や行事、事故報告等の後、意見交換が行われている。虐待についての勉強会を運営推進会議の中に組み入れ、参加委員から意見を収集しサービスに反映させる等この会議を有効に活用している。	運営推進会議開催に際し、参加有無を書面でもらうこととしている。案内の中に意見や要望欄を設けることで、欠席される家族からの要望や意見等を引き出す事を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターからの問い合わせを受けたり相談できている。	役場担当者は運営推進会議に出席し、ホームの実情等を把握するとともに必要な情報を提供している。また、地域包括支援センターとは、空き情報や困難事例の同居相談など、日頃から連携を図っている。ホームは、事故報告や外部評価結果の提出等できるだけ直接役場に出向きながら、情報交換を行う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、拘束はしない取り組みを実践している。ただスピーチロックをしているなど振り返ることも多い。	身体拘束はしないことを前提とし、職員会議(勉強会)の中で拘束廃止に向けた研修や専門誌から情報をリサーチし、虐待等の報道により意見交換や話し合いを行い、日頃から拘束の無いケアを実践している。センサーマットも使用しておらず、気配を感じるため夜間帯は布団やドアに鈴を付ける等工夫している。また、職員の声かけ“だめだめ しないで等”無意識に出してしまうことを課題として認識し、注意喚起している。帰宅願望や外出傾向等表情などにより把握し、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマとしている。資料を参考にしたりし会議を行なっている。運営推進会議で話し合ったりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の職員による勉強会を運営推進会議で勉強会を依頼し実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行なっている。経過をみながら要望や不安なことはないか尋ねている。料金の改定時は文書にて説明同意を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の家族アンケートや介護計画の説明時に意見をいただくようにしている。意見の内容を把握して実行反映する事で運営良好につなげたい。	年末の家族会の中でアンケート調査を行い、ホームの運営等に関して記述式により、詳しく収集している。また、家族の訪問時に声を掛け、要望や相談等を聞き取りし、職員会議の中で話し合いサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営において職員の意見や提案はともに重要な要項だと認識している。今後も会議を意見交換や審議の場としより良くしていきたい。	職員会議時に、意見が出しやすい雰囲気づくりに努め、意見や提案等を聞いている。管理者は、日々のケアの中でコミュニケーションを図っており、風通しのよい関係性が築かれ、休暇取得や夜勤は譲り合いの精神を忘れず、できるだけ希望に沿うようにしている。更に、職員が働きやすい環境について、全員で考える問題であると認識している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が常に働きやすい職場である様に努力し結果職員個々のモチベーションの向上につながるようにしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する事は現状的に厳しいが職場内でベテラン職員が職員一人ひとりに目を配りフォローする事で育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会議へ参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	経過をみながら本人やご家族とのコミュニケーションの中で聞き取りを実施している。面会時に様子を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子を月に一度の手紙を送ることで把握していただき意向や要望を聞き取りやすくできるよう実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が最優先であるかを考え検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にホームでの生活者であると考えていると思っっている。支援する側 受ける側ではなくここで生活する人同士でありたいと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって、離れて暮らす家族が一番でありご家族と本人さんとの媒介者であることがよいのではないかと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係が何より重要であると思われる。「家がいい」家族との関係が途切れないよう家族との関わりを大切にしている。誕生日や祝い事・自宅外出。	家族が会いに来てくださることが入居者にとって一番うれしいことであるとして、家族の迎えやホーム側が送迎をしながら自宅への外出を支援している。近隣商店へ買い物に出かけると声を掛けられたり、受診時に家族と一緒に買い物をされる方、法事等で自宅へ出かけ、文楽、歌謡ショー、大衆劇等家族を中心としてこれまでの関係が途切れないよう支援している。また、ぬり絵などの趣味や特技も継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性だったり、誤解だったりトラブルもあるがいつも馴染みの顔ぶれの中で頼り・頼られたり一緒に食事したりする中で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、行事に参加呼びかけたり、手紙をだしたり来館されたりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的に意向を伝える、思いを伝えることができる方は少なく、そうではないだろうか？とスタッフが思いを探している。	各担当者が入居者の思いを把握し、笑顔が出ると思いはこれではないかと推察し、まず実践することとしている。意思表示や発語困難な状況には、表情や行動から思いをくみ取り、本人本位になるよう対応している。笑顔もバロメーターとして捉え、この方にとって何が良いか、何がしたいのかを根底に置きながら、気づきを持ってケアに努めている。入居者によっては、日課を自分で組み立て、居室で趣味に興じたり、自分の言葉で希望(行きたい・○○が欲しい)等発信されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集に努めている。介護支援専門員や入居前の事業所やご家族に聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安静が重要だったり、活動優先であったりと個々の把握に努めようとしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の際は担当ケースの意向を確認しモニタリング実践してもらっている。担当ケースとそのご家族とのコミュニケーションに努められている。	担当制をとっており、日々の関わりの中で、入居者の思いや意向を把握するとともに、家族は、月1回の手紙による入居者の様子報告や面会時の声掛けにより、意向等を把握している。これらをもとに、3か月ごとに、家族も交えてモニタリングを行い、定期のプラン見直しに反映させている。また、入退院や転倒等で変化が大きい時は臨機応変に見直すこととしている。家族には、年1回はプランについて説明し、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まだまだ不十分である。実施した事は記入しているがそこでの気づきや実践そして結果へと過程を記録することまでには至っていない記録状況である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町外への入院や受診支援や自宅外出時の送迎支援。役場への付き添いなど必要時ご家族より来れば対応可能な場合は実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があればまた、行ってみたい様子あれば実現できるよう協力する。文楽鑑賞踊りや歌等のショー等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じご家族同伴していただき病状説明や治療方針の説明を受けるよう調整支援している。	入居時に土・日も対応できる場所、緊急時対応ができる医療機関を打診し、協力医療機関をかかりつけとしている。受診に同伴される家族もあるが、ほとんどはホーム側で対応し、受診結果を家族に報告している。歯科については、入居時点で一度見てもらいたいこととしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報の連絡・交換連携できている。早期での相談受診を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での治療の必要性・ご家族の意向など病院とホーム・ご家族と話し合い連携できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な時期に詳細に希望・意向を聞き取り病院・訪問看護・ご家族の連携のなかで支援している。	胃瘻や医療中心になるとホームでは対応できないことを説明し、家族の意向による訪問診療を利用し終末期を支援する等状態に応じ家族に打診している。管理者は、職員は負担に思うかもしれないが、本人・家族に何をさせてあげられるか検討しながら入居者の最終章を支えているとし、この経験が職員の意欲を引き出し、人の死を見つめたことがよい結果につながったと振り返っている。特別養護老人ホームの入所申し込みや、元気な時に自分の今後をしたためた方もおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での講習を受講している。勉強会も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震時地域への協力依頼の連絡網作成できている。移送必要時は会社への連絡協力体制である。	火災時の避難訓練や消防の立入検査も受けている。土砂災害危険区域に指定された場所にあり、母体会社との協力体制や避難場所・経路を確認している。災害時手順、役割分担の話し合いは行っているが、自然災害時の避難訓練は今後行いたいとしている。	熊本地震では大きな被害はなかったが、母体の会社の支援を得て乗り切っている。今後も、地域との自然災害時の対応等を運営推進会議の中で検討したり、全職員での机上訓練等により、今後の備えとしていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や面会時注意している。見えないように聞こえ過ぎないように、その日の様子に応じて対応している。馴れ合いに注意している。	倫理・法令の勉強会や、プライバシー保護について話し合っている。入浴・排泄支援等プライバシーが保てるよう注意し、同郷という関係の深さもあり、馴れ合いにならないことや、守秘義務を徹底するよう指導している。理念である人徳こそが高齢者への尊重、敬いの心そのものであり、慈しみの心を持ってケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけずに聞いている。本人がしたいようされるよう見守ることも多い。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の日課を決めておられる方は少なく、どうしたいとおられるのか支援者が理解できていないことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の希望を聞いたり、お願いしたりしておしゃれの支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はスタッフ側の理由もあり減っている。	料理専任を採用しており、厨房での調理に入居者も一緒に行くことは少なくなっているが、見守りという観点からエプロンをかけて調理に関わる方もある。週に1回はその日のスタッフによりお楽しみメニューとしている。また、入居者から見える場所で野菜を作り、育つ喜び、収穫、食卓に上る事などを楽しみとし、入居者と職員とが時には地域性のある話題で話が弾み、和やかな時間が持たれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食に関しての把握は出来ており、脱水や便秘に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは徹底している。洗口液を使用したりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を観察しながら、本人に応じた排泄方法とパットを選び実施している。	入居者の尿意等の訴えによりトイレへ誘導しているが、自立した方は自由にトイレへ行き来されている。全員が布パンツであり、予防として尿取りパットを使用される方や、昼・夜の排泄用品の使い分け、夜間帯はポータブルトイレ等一人ひとりの状況により支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での工夫が結果にでない場合は緩下剤の処方に頼っているが便秘は予防できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間はお願いしていることが多いが、入浴時間は制限せずゆっくり入っただいている。	毎日入浴の準備をし、概ね一日置きとしているが、希望により随時支援している。病院受診やその日の体調等により声を掛け、職員と1対1のゆっくりとした時間や菖蒲・柚子湯等より見当識としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心できる場所で休息されるよう支援している。ソファーやベッドだったり、湯たんぽや電気毛布を利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにあり確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとの把握が不十分であるように思われる本当に楽しい・楽しみにしていることの把握が十分でないように思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出が多く必要に応じ送迎のみ支援したりしている。ご家族からの申し出が多く利用者自身からの希望は少なくなってきた。	家族との外出や文楽鑑賞や外食に出かけているが、入居者から外出したいとの希望は少なく、特にインフルエンザ予防等寒い時期は外出を控えている。保育園の運動会では楽しい方法を提示してもらいながら競技に参加している。	春先暖かくなってくると、入居者も外出の意欲が出るものと思われる。ホーム周辺の散歩や花見(桜)等身近な外出から支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時や買い物時に所持金使われており見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出される方の支援できている。電話を希望される方の支援も出来ている。届いた手紙本人さんへ渡している。またご家族への手紙を出す時利用者さんにご家族へ何か伝えたいことはないか尋ねるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが好まれる場所はリビングでありソファや椅子を多く置いている。大きなガラス窓より外が眺められる。	入居者の身体的な低下等により見直したりリビングは、状況に合わせたレイアウトを施し、掃き出し窓から見慣れた景色が入居者の安らぎに繋げている。入居者の作品が室内環境の彩りとして生かされ、歩行訓練にも十分な長さの廊下には長椅子を設置し、居室前の休憩場所や入居者同士の語らいの場としている。職員の心使いが季節にそぐわないと壁掛け扇風機のカバーに表れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方の居室へ訪室されたり自分の席に着かれる。ほとんどリビングで過ごされる方が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持ち込んでいただいている。好きな物や見慣れた物を置いておられる。	入居に当たり、まず他の入居者の居室を見てもらっている。居室には筆筒の他馴染の品物やテレビ・マッサージや、日記や趣味を継続して居室で作られるようにと家族がテーブルや椅子を持参されている。遺影にお茶やお菓子を供える方や、自分の洗濯物を干す等自宅の沿線にある居室環境である。入居者の心身の状況に応じたベッド配置や、担当職員により整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みのある物や張り紙での案内表示をしている自分の部屋を間違える方は現在おられない。		